

- ・全道へき地複式教育研究大会関係
- ・全道へき地複式教育研究大会プレ大会関係
- ・北海道へき地複式教育実践研究発表大会関係
- ・全国へき地教育研究大会関連
- ・「道へき・複連情報」
- ・地区へき・複連情報 など

(2)「全国へき地教育新聞」関係

①「全国へき地教育新聞」拡大の取組

総会等において意義や利点を踏まえ購読拡大の取組をお願いしてきました。

- ・「全国へき地教育新聞」は、全国へき地教育研究連盟が編集し、教育新聞社が発行するもので、全へき連とへき地・複式校を結ぶ唯一の機関紙である。内容は、各種教育情報や教育研究大会情報、教育実践を発表するなど、我々がつくる我々の新聞である。
- ・「全国へき地教育新聞」は、読者の購読料によって刊行されており、数の減少が発行を困難にする大きな要因になってきている。
- ・各地区へき・複連の財政に多少の貢献がある。各地区へき・複連で納入する場合、一部につき150円の還元がある。

<取組の手立てとして>

- 各地区へき・複連で地教委等、関係機関に購読料の予算化を働きかける。
- 各地区へき・複連の会議、会合などで購読を呼びかける。
- 各地区へき・複連に「全国へき地教育新聞」担当者または係を置くようにする。

以上のように、各地区へき・複連のご協力をいただき、購読拡大の取組をしてきました。

来年度の子約購読をはじめ、新たな申し込みがあり、全国大会に向けた各校の積極的な取り組みの成果と大変うれしく思います。

今後ますます統廃合や町村合併、市町村財政逼迫等により購読数が減少することが予想されますが、「全国へき地教育新聞」の「へき地・複式・小規模校交流の場、情報交換の場」としての意義を理解していただき、今後さらに個人購読も含め、購読の働きかけを強く呼びかけてい

きます。

②「全国へき地教育新聞」原稿執筆の取組

原稿種別、送付月を地区毎に割り振り執筆をお願いしました。各地区へき・複連のご協力と執筆者各位に心より感謝とお礼を申し上げます。新聞掲載については、順次掲載され、情報、実践の交流がなされております。

③「全国へき地教育新聞」執筆原稿依頼について
平成22年度の原稿執筆依頼送付については、次の通りお願いしました。

全国へき地教育新聞編集局の依頼で、執筆原稿はメールまたは封書にて返信することになっていきますので、次年度もそのようにお願いすることになります。

④「全国へき地教育新聞」の《原稿種別》

1. 論評(市町村教育長、各局指導主事)
2. 山紫水明(校長)
3. 随想(教頭、教務主任、学級担任など)
4. 心温まる話(どなたでも)
5. 私の推薦する一冊の本(校長、教頭他)
6. やすらぎ保健室(養護教諭)
7. さわやか事務室から(事務職員)
8. わが町・わが学校(保護者)
9. 研究実践校紹介(実践校)

「全国へき地教育新聞」原稿執筆者地区別一覧
(平成22年度原稿本数38本)

原稿種別 番号	8月	9月	10月	11月
1	◇	宗谷	◇	根室
2	上川	渡島	空知	留萌
3	後志	釧路	檜山	空知
4	空知	胆振	渡島	上川
5	石狩	後志	日高	十勝
6	胆振	空知	釧路	日高
7	檜山	石狩	留萌	根室
8	根室	留萌	胆振	オホーツク
9	後志 宗谷	日高 オホーツク	渡島 十勝	上川 釧路

総務部報告



副委員長 若林 弘士

1. 活動経過報告

5月14日 道へき・複連総会
第1回組織検討委員会

5月21日 第1回常任委員会、常任委員挨拶回り

6月28日 第2回常任委員会、第2回組織検討委員会

7月 5日 全国基本調査依頼（全道14管内）
（7/31：回収・集約、8/31：全へき連へ提出）

8月 2日 第3回組織検討委員会

9月15日 第3回常任委員会

9月16日 第1回評議委員会（組織検討委員会中間報告）

9月16日～17日

第59回道へき複研究大会胆振大会

9月30日～10月1日

第60回道へき複研究プレ大会上川大会

10月29日 第26回道へき複実践研究発表大会

1月24日 第4回常任委員会

2. 平成23年度教育予算要望

総会で提案したとおり、道小の中で意見反映を行いながら、道小・道中・道教頭会と一体となって、以下の内容で要望活動を進め、各地区からの要望事項の実現に努めてきた。

<基本的な要望事項>

1. 教員定数の配置基準および学級編成基準の改善
2. 教職員の生活の安定・向上のための改善
3. 教職員の資質向上に関わる研修についての改善
4. 学校経営の適正化と充実への対応
5. へき地教育の推進についての改善
6. へき地勤務条件の充実

3. 次期へき地級別指定見直しに関する取組

『へき地教育振興法施行規則の一部を改正する省令案』が制定され、級地策定作業段階から全へき連を通して実態に合った級地とするために文科省と意見交換や情報交流を進めた。さらに、道教委にも北海道の広域性を反映した級地の指定となるよう申し入れをしてきた。その結果、離島実態などが基準に反映されるな

ど、一部要望が取り入れられたが、全体的に基準点数が下がり、現行へき地級数の維持は厳しいものとなった。数字的には、学校等総数2436校の48.1%にあたる1171校あったへき地校等は、960校に減少（211校減で40.5%に）した。「へき地手当に関する規則の運用等についての一部改訂」により、4月からへき地新級地の適用が始まったが、今後も、地域の実態に応じた算定であるか、適切な調整点であるかなど情報収集に努め、全へき連、道小、道へき・複連OB会と連携しながら、国や道へ意見具申を続けていく。

4. 調査活動について

(1) 全へき基本調査について

各地区連盟のご協力により、予定通り集約し、提出完了。全へき連より集約結果が届き次第、配布の予定。

(2) へき地・複式教育に関する実態調査

総務部の直接業務ではなかったが、道へき・複連OB会より、道へき・複連に依頼があった。事務局が14管内へ発送。各加盟校は直接OB会事務局へ返送する手立てをとった。

(3) その他調査依頼

1月末現在、依頼なし

5. 組織検討委員会の活動概要

道へき・複連では、今年度も組織検討委員会を設置して、組織体制、研究活動、財政等の在り方や改善について協議・検討してきた。

(1) 組織検討委員会の構成

委員長：盛 繁治(道東ブロック・根室)

委員：伊藤 孝三(道南ブロック・日高)

：河田 茂(道央ブロック・後志)

：矢尾 泰(道北ブロック・宗谷)

他に常任委員（委員長、総務部長、研究部長、財政部長、事務局長）を加え、計9名で構成

(2) 平成22年度の検討課題

- ①道へき・複連の組織体制の改善と情報のあり方
- ②研究推進委員会のあり方
- ③道へき・複連の財政の健全化に向けての検討
- ④今後の全道大会・プレ大会及び全国大会についての検討
- ⑤次期へき地級指定見直しに関する件について
- ⑥各地区からの提出課題の検討

研究部報告

副委員長 岩淵 明男

1 研究主題

主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましくふるさとを拓く子供の育成～へき地・複式教育の特性を生かし、児童一人一人に未来に生きる力を育む学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～

2 研究活動の重点と成果

道へき・複連第8次長計の2年次として、実践研究を充実させ、地域に根ざした魅力ある教育活動の創造・発展に努める。

- (1) 第8次長計に基づく実践研究の充実
- (2) 共同研究体制による理論の構築と記録の蓄積
- (3) 全道へき地複式教育研究大会及びプレ大会の効果的な開催～共同研究者としての協力～
- (4) 全国大会開催に向けての体制の確立
- (5) 研究資料・情報等の編集と発行（「研究主題・指導形態等一覧」「研究部情報」）
- (6) 各関係団体との連携

《おもな成果》

◎第59回全道へき地複式教育研究大会胆振大会

9月16・17日、胆振管内9会場で開催され、全道から639人の参加者があった。大会スローガン「未来をたくましく生きぬく胆振の子らに 豊かな心と確かな学力を!!」のもと、道徳的実践力の育成、複式授業のあり方や少人数指導のよさを生かした指導方法等が検証された。一人の担任による理科の学年別指導の公開は、近年の大きな課題解明の糸口となるものであった。

◎第60回全道へき地複式教育研究大会上川プレ大会

次年度の全国大会を控えた上川地区で、「北の大地上川で育つ子らに 培おう未来を切り開く実力を」のスローガンのもと、9月から10月にかけて9会場で開催された。期待も大きく、784人の参加者を得た。道へき・複連第8次長計の課題を明確にとらえ、上川らしさを全面に出した生き生きとした子どもたちの活動が展開された。

◎第26回北海道へき地・複式教育実践研究発表大会

10月29日、ホテルライフオーブ札幌において行われ、総勢64名の参加があった。

昨年までの反省と参加者の意見を生かし、初の金曜日開催という試みであったが、参加者の増加を見ることができたのは大きな成果であった。道内3地区から第8次長計に基づいて発表された提言はいずれも質が高く、活発な研究協議がなされた。講演では、北海道教育大学釧路校講師の川前あゆみ氏より、へき地・小規模校の可能性と教職員の意識転換の課題について、発想転換の必要性という観点からお話をいただいた。

◎研究主題等一覧の集計と活用

全道の加盟校の研究主題・研究分野、教科等の指導形態について調査集計し、分析を加えてまとめた。各地区及び加盟校にCD化して配布、ホームページにも掲載して活用を図っている。

3 研究部事業報告

- | | | |
|--------|-------------------------|--|
| 5月24日 | 第1回企画委員会 | ・企画委員会の体制と業務内容
・日程・役割分担の確認と研究推進委員会の運営について |
| 5月24日 | 第1回研究推進委員会 | ・平成22年度研究部計画の確認
・研究推進委員の業務・役割分担
・上川プレ大会の助言者の決定
・各管内へき地・複連活動状況交流 |
| ～25日 | | |
| 7月5日 | 第2回企画委員会 | ・実践研究発表大会に向けて
・今後の研究と資料蓄積について |
| 7月5日 | 第2回研究推進委員会 | ・研究主題・指導形態等調査発行
・研究部情報第1号発行
・実践研究発表大会の運営検討
・胆振大会、上川プレ大会への具体的な協力について |
| ～6日 | | |
| 9月16日 | 第59回全道へき地複式教育研究大会胆振大会 | ・胆振管内9会場（研究協力者） |
| ～17日 | | |
| 9月 | 第60回全道へき地複式教育研究大会上川プレ大会 | ・上川管内9会場（研究協力者） |
| ～10月 | | |
| 10月28日 | 第3回企画委員会 | ・実践研究発表大会について |
| 10月28日 | 第3回研究推進委員会 | ・第26回実践研究発表大会の運営確認と準備
・発表者・司会者・記録者等打合わせ |
| 10月29日 | 第26回北海道へき地複式教育実践研究発表大会 | |
| 1月11日 | 第4回企画委員会 | ・今年度の活動のまとめと次年度への展望
・実践研究発表大会の反省
・次年度全国大会に向けて |
| 2月17日 | 第4回研究推進委員会 | ・研究部情報第2号の発行
・今年度の事業反省・まとめ
・各管内へき・複連活動状況交流
・次年度の事業計画
・次年度の研究推進体制について
・次年度全国大会に向けての体制づくり |
| ～18日 | | |